

2019年7月5日

日本銀行大阪支店

関西金融経済動向

【全体感】

関西の景気は、一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかな拡大を続けている。

輸出は、足もと弱めの動きがみられている。設備投資は、増加している。個人消費は、良好な雇用・所得環境等を背景とした家計の支出スタンス改善を伴いつつ、総じてみれば緩やかに増加している。住宅投資は、持ち直している。公共投資は、持ち直しつつある。こうした中で、生産は、足もと弱めの動きがみられている。この間、企業の業況感は、非製造業を中心に良好な水準を維持している。

先行きの景気を巡るリスク要因としては、米国のマクロ政策運営やそれが国際金融市場に及ぼす影響、保護主義的な動きの帰趨とその影響、それらも含めた中国を始めとする新興国・資源国経済の動向、IT関連財のグローバルな調整の進捗状況、地政学的リスク、それらが企業や家計のマインドに与える影響などが挙げられる。

【各論】

1. 需要項目別動向

公共投資は、持ち直しつつある。

輸出は、足もと弱めの動きがみられている。

内訳をみると、資本財や情報関連が弱めの動きとなっている。

設備投資は、増加している。

個人消費は、良好な雇用・所得環境等を背景とした家計の支出スタンス改善を伴いつつ、総じてみれば緩やかに増加している。

百貨店販売額は、増加している。スーパー等販売額、家電販売額は、緩やかに増加している。乗用車販売は、緩やかに持ち直している。旅行取扱額は、横ばい圏内の動きとなっている。外食売上高は、増加基調にある。

住宅投資は、持ち直している。

2. 生産

生産（鉱工業生産）は、足もと弱めの動きがみられている。

内訳をみると、生産用機械や電気・情報通信機械、電子部品・デバイスが弱めの動きとなっている。

3. 雇用・所得動向

雇用・所得環境をみると、労働需給が着実に引き締まるもとので、雇用者数は増加しており、雇用者所得も緩やかに増加している。

4. 物価

消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、0%台半ばとなっている。

5. 企業倒産

企業倒産は、総じて低水準で推移している。

6. 金融情勢

預金残高は、個人預金や法人預金の増加を背景に、前年比2%程度のプラスとなっている。

貸出残高は、企業向けや住宅ローンの増加などを背景に、前年比1%台後半のプラスとなっている。

預金金利は、低水準で推移している。

貸出金利は、低下している。

以 上